

チャペル週報

No.5

2026.5.18~5.22

春季宗教運動特集号

わが主よ、あなたこそわが希望。

詩編 71 編 5 節



ダッドレーメモリアルチャペル（西宮聖和キャンパス）

関西学院宗教センター



チャペル・スケジュール

時間：西宮上ヶ原キャンパス・神戸三田キャンパス・西宮聖和キャンパス 10:30～11:00
場所：各学部チャペル(ランバスチャペルアワーは西宮上ヶ原キャンパスランバス記念礼拝堂)

5月18日(月) 神 音楽チャペル マンドリンクラブ
人 大宮 有博(法学部宗教主事)
建 Eco-Habitat 関西学院
短大 山内クラス ダッドレーチャペル

5月19日(火) 大学合同チャペル -建学の精神- (10:20～11:10)

西宮上ヶ原キャンパス 会場:中央講堂

「大学昇格の頃を覚えて」 森 康俊 (学長)

神戸三田キャンパス 会場:VI号館101教室

「マスターからのサービスです」 Christian Triebel (宣教師、学長直属准教授)

西宮聖和キャンパス 会場:メアリー・イザベラ・ランバスチャペル

「“Mastery for Service” -愛なき練達、練達なき愛を越えて」 中道 基夫 (院長)

5月20日(水) 大学合同チャペル -建学の精神- (10:20～11:10)

西宮上ヶ原キャンパス 会場:中央講堂

「“Mastery for Service” -愛なき練達、練達なき愛を越えて」 中道 基夫 (院長)

神戸三田キャンパス 会場:VI号館101教室

「大学昇格の頃を覚えて」 森 康俊 (学長)

西宮聖和キャンパス 会場:メアリー・イザベラ・ランバスチャペル

「自立と共生の学び舎、関西学院大学」 今津屋 直子 (副学長)

5月21日(木) 神 Chapel in English アジア祈禱日を覚えて Esben Petersen (宣教師、神学部助教)
文 音楽チャペル 関西学院ウイメンズ・グリークラブ
社 出合い② 貴戸 理恵(社会学部教授)
法 宗教総部
経 アイダホの日(5/17)を覚えて 武田 丈(人間福祉学部教授・人権教育研究室長)
商 木原 桂二(宗教主事)
人 李 政元(人間福祉学部教授)
国 Musical Chapel in English 関西学院聖歌隊
総 特定非営利活動法人 メインストリーム協会
短大 鈴木 貴博(日本キリスト教団大阪大道教会)

5月22日(金) ランバス ペンテコステを前に Timothy O. Benedict (宣教師、社会学部准教授) ベーツチャペルにて開催
神 未来をひらく⑤ 東 よしみ(神学部准教授)
文 Chapel in English Andreas Rusterholz (宗教主事)
経 ペンテコステ(聖霊降臨祭)を覚えて 舟木 讓(宗教主事)
理・工・生環 Christian M. Hermansen (宣教師、法学部教授)

◇ランバス早天祈禱会 毎週金曜日 8:20～8:40 ベーツチャペルにて開催

5月22日(金) ペンテコステ(5/24)を前にして 李 善恵(宣教師、人間福祉学部教授)

Zoomでもご参加いただけます。



オンライン (Zoom)

大学昇格の頃を覚えて

森 康俊

大学合同チャペルの機会に、大学昇格運動の頃の関西学院に思いを馳せてみたいと思います。皆さんも、1889年にランバス宣教師が19名の学生・生徒と5名の教師からなる小さな学校を創立したことが学院の始まりであるにご存じのことでしょう。しかし、学院が大学を設置するまでの経緯について、まとまったストーリーを聞いた人はそれほど多くないかもしれません。学院が創立された当時、日本で大学とされたのは、官立の帝国大学のみであり、帝大以外は官公立でも工業学校や商業学校など専門学校でした。現在の私立大学は、私塾や語学学校、法律学校として、それぞれの源流となる教育組織が創られた時期でした。1868年慶應義塾、1874年立教学校、1875年同志社英学校、1881年明治法律学校、東京法学校、1882年東京専門学校、1883年東京英和学校、1885年英吉利法律学校、1886年関西法律学校、1889年京都法学校などです。中には、専門学校令のもとで「大学」と称するところも出てきました。

1918年大学令が制定され、本学でも1919年に高等学部の学生たちが理事会に対し、大学昇格の嘆願書を提出、理事会も大学昇格を目指し、南メソヂスト監督教会とカナダ・メソヂスト教会に働きかけます。しかし、第一次世界大戦後の世界的不況で、大学昇格のための費用を米国とカナダの教会に依存するわけにはいかず、主体的な資金調達が必要になりました。1926年、実業家の河鱒節から校地を売却し、郊外に移転、その利益を元に大学昇格を財政面から成し遂げようという発案がありました。せっかく整えた原田の校地を売却することには批判や異論が噴出したのですが、河鱒は高等商業学部長の神崎驥一と小林一三を引き合わせることに成功します。結果、1928年に学院は320万円で原田の校地を阪急に売却、学院は上ヶ原の校地を55万円で購入しました。そして、1929年に学院は原田の森から上ヶ原に移転します。

学生や教職員の思いを背負い、1930年の年末にベーツ院長が米国、カナダに向かい、翌年1月連合教育委員会で大学昇格案が認められました。1932年に旧制大学としての関西学院大学が誕生しました。これからがこれまでを決めるとの信念で先達のことを覚えます。

(学長)

"Mastery for Service"——愛なき練達、練達なき愛を越えて

中道 基夫

愛は素晴らしいものです。私たちは愛すること、愛されることに憧れを抱き、多くの歌や物語が愛を讃えます。けれども同時に、愛は重荷にもなります。「あなたのためを思って」という言葉に、息苦しさを覚えたことはないでしょうか。情念としての愛は、そのままでは相手を縛り、自分を消耗させる力にもなりかねません。エーリッヒ・フロムは『愛するということ』の中で、愛とは感情ではなく能動的な働きかけであり、そこには技術が要ると語りました。たとえば友人が愚痴をこぼしているとき、的確な助言を与えることも愛でしょう。しかし、相手が本当に必要としているのが受容であるなら、黙って聴くことこそ愛かもしれません。語るべきか、聴くべきか。どう語るのか、どう聴くのか。そこには知識と洞察と判断と忍耐が要ります。愛することは、学ぶことと切り離せないのです。裏を返せば、その学びを欠いた愛は、自分も相手も傷つけ、関係そのものを壊してしまいます。これが「練達なき愛」です。

しかし聖書は、もう一つの真実を突きつけます。「山を移すほどの信仰を持っていても、愛がなければ、無に等しい」(I コリント 13:2)。どれほど力や知識を身につけても、どれほど正しいことを語っていても、そこに愛がなければ何の益もない。これが「愛なき練達」です。正しさが優先されるところには、しばしば窮屈な空間が生まれます。鋭さは傲慢へ、専門性は支配へと傾きかねません。

私たちが招かれているのは、どちらか一方を選ぶことではありません。練達としての“Mastery”と愛としての“Service”。その緊張の間に立ち続けることです。愛は練達を否定しません。むしろ練達を本来の目的へと引き戻します。練達も愛を冷たくしません。愛を現実に届くかたちへと具体化します。皆さんがこれから講義や実習、またさまざまな失敗を通して出会う一つひとつの学びは、誰かのために差し出されるとき、はじめて“Mastery”になります。そして、そこに真の“Service”が生まれます。愛が練達に方向を与え、練達によって形にされた愛が誰かへ向かう。この結び直しを生きること、それが関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”です。

(院長)

自立と共生の学び舎、関西学院大学

今津屋 直子

スクールモットーMastery for Service には、隣人愛がその根幹にあります。隣人愛と聞くと、徳のある、善良な人の行動倫理のように思われるかも知れませんが、Mastery for Service が関西学院につながる誰にとっても共有できるモットーであるなら、隣人愛も然りです。

隣人とは誰でしょうか。私はキリスト教主義の学校で多感な時期を過ごしました。「わたしはまことのぶどうの木、あなたがたはその枝である」で始まる聖句(ヨハネ 15:5) は、友人関係で悩む私に他者との適度な距離感を示してくれました。他者との繋がりの中に神様がいる、相手と相對する関係ではなく神様に繋がる自分と同じように他者が存在する、その関係において他者とは身近な存在に限らず自分以外に存在する誰かであり、存在の距離に関係なく誰もが隣人といえます。

子どもは様々な体験や学びを通して、自立を目指します。一方で、自立には他者との共生の側面もあります。私たちは幼い頃から、友達と仲良くしようねと言われ、時には仲間外れを経験したり、喧嘩をすることもあります。次第に自らの意思で、仲間とは喧嘩を避け、困ったら助けを求め、困っている人がいたら協力するなど、共生の道を探ります。他者に対して敬意を払い、共感し、他者を大切に思うことを覚えます。それらは隣人愛といえるのではないのでしょうか。

Mastery for Service の提唱者であるベーツ先生は、人間は私的側面と公的側面をもち、それぞれ自己修養と自己犠牲という理想があり、両者は相反せず補い合うもので、自己犠牲に基づく自己修養は理にかなっているだけではなく必要不可欠であると、Mastery for Service に込められた意味について述べておられます。自立と共生の途にある学生の皆さんにとって Mastery for Service の根幹にある隣人愛は手の届かないところではなくあなた方のうちにあり、つまり自己犠牲に基づく自己修養の準備は整っていることと思います。皆さんが Mastery for Service を体現する一步を踏み出し、本学で精進されることを願います。

(副学長)

マスターからのサービスです

Christian Triebel

高校生のとき、近所の創作料理店でアルバイトをしていました。働き始めて間もない頃、誕生日を祝っているお客様に、「『マスターからのサービスです』と言って、これを持って行け」と、豪華なデザートが載ったお皿を渡され、さらに「歌も歌ってこい」と店長に言われました。始めたばかりのアルバイトで断れるはずもなく、見ず知らずの人たちの前で、大声で「ハッピーバースデートゥーユー！」を歌いました。あの時の恥ずかしさは、今でも忘れられません。「マスターからのサービスです」という言葉も、ずっと心に残っています。

そして、その言葉とどこか似たモットーを掲げる学校で教えることになりました。「マスターからのサービス」と「マスタリー・フォー・サービス」。

料理店の「マスター」は、長年の修行によって料理の腕を磨き上げて、その技術を極めたからこそ自分の店を持つことができ、提供する料理に対して相応の対価を得ることができるのです。一方で、「サービス」は無償で何かを提供することです。もちろん、毎日無料で料理を振る舞うわけにはいきません。そんなことをすれば商売は成り立ちません。誕生日を祝っているお客様に無料でデザートを提供することは、単純にビジネスの観点だけで見れば合理的とは言えません。

サービスとは、マスタリーの延長として自然に生まれるものではなく、むしろそこから逸脱した例外的な行為です。サービスには別の動機が必要です。利益ではなく、たとえば「人の喜ぶ顔が見たい」という別の目的から生まれるものです。

では、大学において、科学をマスタリーと捉えるならば、人類の福祉のために科学を用いるというサービス精神は、科学そのものから生まれるのでしょうか。科学技術は優れた道具ですが、それ自体が、その賢明な使い方を教えてくれるわけではありません。科学技術は、その究極的な目的である「フォー・サービス」について自ら答えを与えることができません。そこには別の知恵が必要です。

Project Maven のような AI が爆撃の標的を選び、DJI のドローンが戦場を飛び交うこの時代だからこそ、科学技術だけでなく、それをどう用いるかを問い続けるキリスト教主義教育の意義が、今あらためて問われているのです。

(宣教師、学長直属准教授)

●夕の礼拝のご案内

勉学や仕事終わりなどに、どなたでもご参加いただける礼拝です。パイプオルガンの音に耳を傾け、賛美歌を歌い、聖書の言葉に聞き、日々の忙しさと喧騒の中で、こころ静かに過ごすひと時となれば幸いです。皆様のご参加をお待ちしています。オンライン配信も行います。

日時・場所:5月26日(火)18:30~ ベーツチャペル(西宮上ヶ原キャンパス)

テーマ:「ペンテコステ礼拝 -若者は幻を見、老人は夢を見る」

司式:打樋 啓史(宗教総主事) メッセージ:中道 基夫(院長)

主催:関西学院 共催:関西学院宗教活動委員会

問合せ:学校法人関西学院法人部 TEL. 0798-54-6740

●サテライトキャンパスでのチャペルアワー

大阪梅田キャンパスと西宮北口キャンパスでもチャペルアワーを実施しています。

どなたでもご参加いただけるプログラムです。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

大阪梅田キャンパス (アプロースタワー14階 1405教室)

5月21日(木)17:50~18:10 嶺重 淑(大学宗教主事)

西宮北口キャンパス (阪急西宮ガーデンズゲート館7階 多目的室)

6月8日(月)10:35~10:55 Esben Petersen(宣教師、神学部助教)

●大学キリスト教週間 宣教師企画

ラビリンス・ウォーク

期間限定で設置される「ラビリンス」は、一本道を静かに歩くことで、自分自身と向き合う歩く瞑想です。キリスト教の伝統の中で、祈りと内省のために用いられてきました。芝生の上の一本道をゆっくり歩きながら、今の自分の心に、そっと耳を澄ませてみませんか?好きな時間にご自由に体験してみてください!

設置期間:5月18日(月)~5月22日(金)

場所:西宮上ヶ原キャンパス、ランバス記念礼拝堂横の芝生

主催:宗教センター(宣教師企画)

西宮上ヶ原チャペルツアー

西宮上ヶ原キャンパスにある9つのチャペルを回りながらビーズを集めて祈りのブレスレットを作ります。様々なチャペルの素敵な空間を味わいましょう!

日時:5月22日(金)15:10~16:40

スタート・解散:ランバス記念礼拝堂横の芝生(雨天の場合は吉岡記念館ラウンジ)

申し込み:先着20名 ※QRコードよりお申し込みください。

主催:宗教センター(宣教師企画)

(参加者全員プレゼント「祈りの輪」あり)



●ランバスチャペル・ヌーンコンサート

西宮上ヶ原キャンパスの正門に入って右手に見えるチャペル「ランバス記念礼拝堂」では、礼拝はもちろん、コンサートや式典、講演会、結婚式などが行われています。4月から関西学院大学内の様々な音楽団体によるヌーンコンサートが開かれています。お昼休みのひととき、どうぞ耳を傾けてみてください。

6月19日(金)混声合唱団エゴラド ※ベーツチャペルにて開催

6月24日(水)関西学院ハンドベルクワイア ※ベーツチャペルにて開催

7月17日(金)関西学院交響楽団 ※ベーツチャペルにて開催

いずれも 12:45~13:15 <入場無料>

場 所:ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原キャンパス)

主 催:宗教センター・宗教音楽委員会

●関西学院会館ベーツチャペル日曜礼拝

授業期間中の第2・第4日曜日(原則)の10:00~11:00に関西学院会館ベーツチャペルでは日曜礼拝を行っています。どなたでも(クリスチャンでなくとも)ご参加できますのでどうぞお越しください。

5月24日(日)10:00~11:00 ペンテコステ礼拝

●関西学院大学文化総部書道部「聖句展」

日 時:5月18日(月)~29日(金)9:00(初日は10:30から)~17:00(最終日は15:00まで)

場 所:吉岡記念館ラウンジ

主 催:宗教センター

◆使用済み切手収集にご協力ください

本学では「日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)切手部」の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますので、どうぞ吉岡記念館事務室へお届けください。

<郵送先>

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155 関西学院吉岡記念館事務室宗教センター宛

◆盲導犬育成のためご協力をお願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室ははじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆様の温かいご協力をお願いいたします。